

子どもの生活考グループ研究会

グループ員：倉田 裕子 (緑幼稚園)
辻口 浩子 (桜台幼稚園)
吉岡 由香子 (桜台幼稚園)
東岡 友紀 (桜台幼稚園)

合田 新治 (天神川幼稚園)
前中 穂乃花 (おぎの幼稚園)
山川 陽子 (すずはら幼稚園)

担当指導主事：村上 大介

キーワード： 幼児 幼児理解 幼児教育

1 研究テーマ

「子供の生活を通しての学びを考える」

2 研究内容

昨年度に引き続き、「子供の生活を通しての学びを考える」という研究テーマに基づいて研修を行った。年度当初に各回のテーマを決め、今後の保育に活かしていくことができるように、「子供の主体性」という視点を基に、それぞれが保育実践や保育の中での悩みを出し合ったり、教師の援助や環境の構成、子供の学びの読み取りについて考えたりして研修を深めた。また、今年度から新教育要領が本格実施されたことに伴い、日々の保育や行事(作品展や劇遊び)の取り組みや持ち方、今年度市内指定の研究会を終えた教員の学びについて情報交換し合い、子供の生活の中で大切にしていきたい視点を学び合った。

(1) 保育について

- ① 主体性の捉えについて
- ② 異年齢の関わりを深める保育について
- ③ 子供が主体的に遊ぶための保育室の環境について
- ④ 新教育要領に基づく保育について

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 季節ごとの自然環境や保育室の環境など、それぞれの取り組みを詳しく聞くことができ、保育に活かすことができた。
- ② 主体性が育まれるための保育のあり方や行事の持ち方、取り組みの仕方についてそれぞれの園の実践を学び合うことで、「主体的な姿とは子供のどういった姿を捉えるのか」「子供が主体的に学びを深めていく為の保育を行うためには教師がどのように支えていけばよいのか」について考え合うことが出来た。子供たちのやりたいことをどのように支えていくか、教師の関わり方についても、意見し合い学び合うことが出来た。また、「主体的な姿」や「主体性を育むための保育」について、教師間の共通理解、保護者への啓発の大切さも再確認することが出来た。
- ③ 子供たちが遊び込める環境を整えるために、「やりたくなかったときにすぐに取り組みめる環境を整えておくことの大切さ」や「ゆったりとした時間・空間をもつこと」などの重要性を学んだ。
- ④ 園児数が少ない園が増えてきている中で、異年齢が関わることの重要性を再確認した。そして、異年齢が関わり合えるために、教師が意図して環境構成を行っていくことの必要性や、教師の援助を学ぶことが出来た。
- ⑤ 日々の保育での悩みや行事(劇遊び)などについて情報交換を行い、即実践につながる学びとなった。
- ⑥ 日々の保育を新教育要領の「学びに向かう10の姿」にどのようにつながっていくのかを考え合うことができた。

(2) 課題

- ①教育要領の改訂に照らし合わせた、子供の生活を大切にする保育を考える。
- ②主体性について考えを深めていき、保育実践につなげていく。
- ③その時期ならではの保育教材の情報交換を行い、教員の資質向上につなげる。
- ④教師が幅広い知識や情報をもつことができる機会を設ける。